

十和田市現代美術館
十和田地区保育研究会・十和田市私立幼稚園協会
合同研修 (2020.2) 成果資料



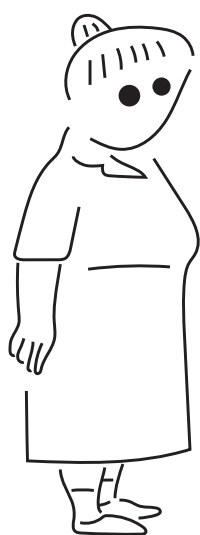
2020年2月に3日間行った合同研修で、
先生方から出た質問やご意見、アイデアをまとめました。
子どもたちとはもちろん、先生方自身も美術館を
楽しむ際の参考としてご活用ください。



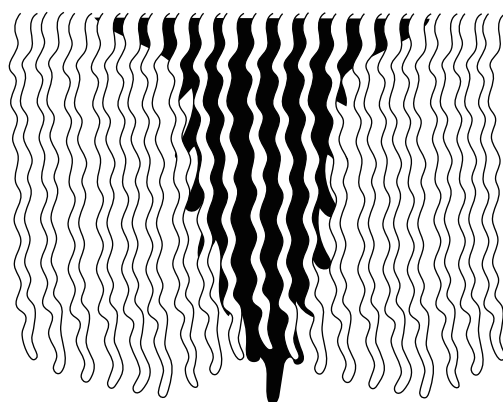
先生たちも /

〈常設展示を楽しむための鑑賞のヒント①〉

「大きな声を出さない・走らない・触らない」などの基本の決まりごとは、展示室に入る前に、ゲームのルール説明のようにしても良いかもしれません。展示室に入る前に、ゆっくり歩いたり、小さな声で話す練習をしてみたり。美術館のルールを、楽しみながら取り入れてみてください。



作品は **座って鑑賞** することもできます。
座ることで、
見えるものが変わったり
作品に触ってしまう
心配も減ります。

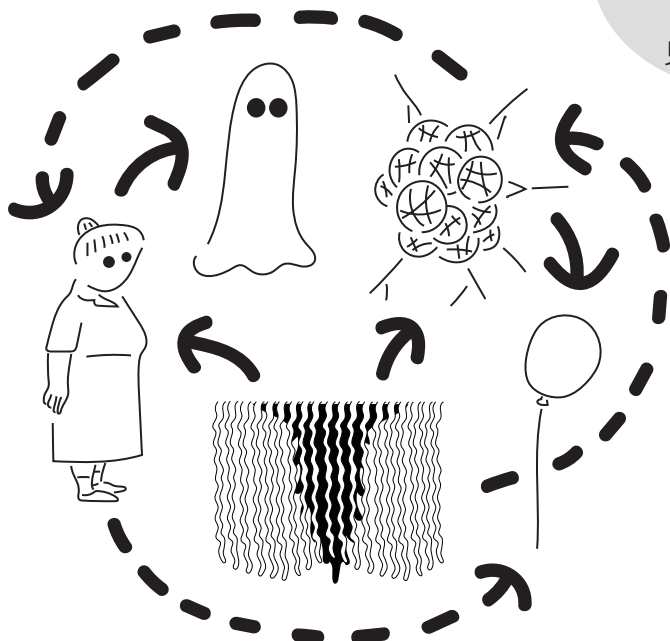


作品によっては、
寝っ転がってみても
楽しめるものもあります。
いろいろな鑑賞方法
を見つけてみてください。



※他の来館者に注意してください。
心配な場合は、看視スタッフに確認してください。

※コロナウイルスの影響により、
鑑賞方法に制限がある場合があります。



作品を鑑賞する順番は、
決まっていません。
集中力がある時に、触ってはいけない
作品を見るなど、工夫もできます。
鑑賞の順番によって、
感じることも違うかもしれません。

常設展の作品は、すべて撮影可能です。(2021.3 現在)
写真を撮ることで、違った視点で楽しめます。
作品や他の来館者にぶつからないよう注意しながら、試してみてください。
※繁忙期や混雑時は、一部撮影を制限することがあります。



先生たちも /

〈常設展示を楽しむための鑑賞のヒント②〉

- たくさんあった質問 -

子どもは
質問が多いので
ドキドキします...



子どもたちと鑑賞していると、**質問されることが多い**です。自分が、作品や作家さんのこと、アートのことを理解していないと、子どもたちに説明できないなと思ってしまいます。どうすれば、子どもたちに必要な情報を教えたり、上手に対話しながら鑑賞することができるか教えてほしいです。やっぱり、先生たちがしっかり勉強をしないとダメでしょうか...

質問されると、正確に答えないと！とドキドキしますよね... 子どもたちと鑑賞をするときに、1番大切なのは、どれだけ自由な気持ちで楽しみ、考えを巡らせることができるか、だと思います。**質問された時、質問で返してみてください**。「どれくらい大きいの？」と聞かれたら「どれくらいかなあ。みんなはどれくらい大きいと思う？」と聞くと、「〇〇メートルかなあ」「お家の半分くらいかなあ」「地球くらい！」と、それが合っているかではなく、子どもたちがどのように感じているのか、先生たちも一緒に楽しめると思います。それでも、実際に知りたいことがあったら、展示室にいるスタッフに聞いてみてください。驚きがあるかもしれません。

質問は質問で
かえってみるといいかも！



知っていることが
ふえなくて全部
おぼえたいなっちゃう...



質問返しをしたりしながら何度も鑑賞しているうちに、**知識が増えてく**ると、つい子どもたちにも共有したくなります。**どんどん教えても良いので**しょうか。大人は知っていることや答えを言いがちですが、子どもの思いや考えを引き出すには、控えるべきか悩みます。現代アートの研修を重ねて、**そもそも正解があるのか？**という疑問もでてきました。

作家がなぜその作品をつくったのか、考え方や時代背景はどうだったのか。など教科書に載っているような情報はあります。しかし、**鑑賞には、そういった正確な情報が必要とは言いきれません**。情報を伝えることで、考え方が狭まる可能性もあります。情報を知っていたら思いつかないような自由な発想で、想像やイメージを膨らませることの方が、**豊かな鑑賞**につながると思います。また、現代アートは、今を生きる作家たちの作品です。時代が目まぐるしく変わること、作家の思いや作品の意味は変わり続けています。なので、常に、コレ！といった**正解はない**のです。子どもたちの様子を見ながら、タイミングよくヒントのように情報を伝えることができれば、より楽しく鑑賞ができ、みんなの想像力が爆発するかもしれません。

ざっくり言うと
正解はありません！



さわれる作品
もあるんですね！



触れる作品が、たくさんあること知らなかったです！館内に、触れてもいいマークがあると、子どもたちとも楽しむことができると思います。光の橋も、中を歩けると初めて知りました。次からは、いろいろ楽しめそうです。

触れたり、作品の中を歩くことで楽しめる作品もあります。多くの方が来館するので、触っていいマークをつけると混雑を誘発してしまうこともあります。触ろうとするまでの作品との関係性を大切にしたい、作品をシンプルな空間の中で楽しんでいただきたいこともあり、現在はマークを付けていません。いろいろな工夫を今後も考えていきます！

あります！



先生たちによる／

〈常設展示を子どもたちと楽しむためのアイデア〉

〈美術館にある形・色・パーツ探し！〉

クイズを作る時に、事前に美術館を見てまわりたい。
 どういうところでやれば安全か、考えることが大事。
 まずは、外の展示から試してみると楽しめそう！

見つけた時に、わぁ！！と騒いしまうので、
 大きな声を出すと消えちゃうよ、逃げちゃうよ
 というようなルールをつくるなどして工夫する。

夢中になりすぎると、走ったり周りが見えなくなる。
 展示を見る前や美術館に来る前に、ゆっくり歩く、小さく話す
 などの練習をしてもいいかも。ゲーム形式でも◎



あか ひかるいろ
 うちゅうのいろ くろ うみのいろ
 きいろ そらのいろ あお
 いろのないういろ...



暗闇に光る電話

肩車をする集団に違うポーズ ... ?



小さな美術館の中で ...



大きな指輪



まるは何個ある？



ひかる六角形 ... ?



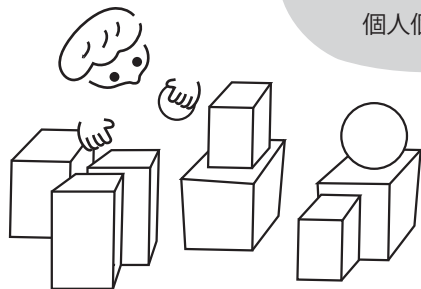
美術館はどんな形 ... ?

〈園内でミニ美術館ごっこ〉

美術館にまだ一緒には来れない、小さい子たちに
 ミニ美術館をつくって作品＆建築案内をする。
 美術館の約束（走らない／小さい声）の練習もする。

アーティストになったつもりで、作品を
 つくって紹介してみる。本物に近づけることより
 自由に、大きくつくってみたい楽しむ！

美術館の建築からつくったり、園を丸ごと美術館に
 しても◎美術館の作品を真似て配置したり、自分たちの作品を
 個人個人、好きなように好きな場所に展示してみる。



積み木やダンボール
 廃材を使って、美術館を作る



折り紙、ねんど、園にあるおもちゃ
 廃材などを使って、作品を再現してみる

先生たちによる／

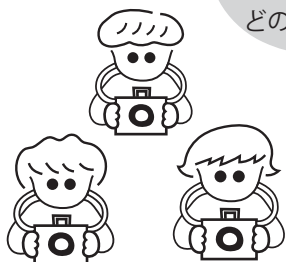
〈常設展示を子どもたちと楽しむためのアイデア〉

〈カメラで鑑賞〉

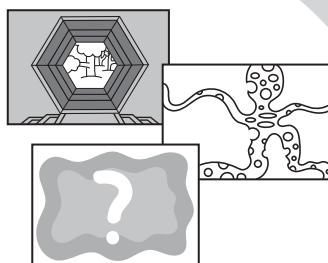
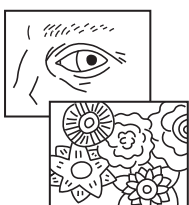
デジカメを使った「映育」の実践ができるのでは。
美術館で撮った写真を作品として、園や美術館で
展示をすることで、大人も新しい見方を発見できる。

カメラを持っていることで、作品に触ってしまう
心配も減る。何チームかに分けて、1作品の滞在
時間を決めるなど、集中力を保つ方法を探る。

子どもたちが、どういう視点を持っているのかということ
いつもとは違う角度で知ることができる。お互いが撮ったものが
どの部分なのか当てるゲームとしても楽しめ、何度も行きたくなる。



「映育」は写真や映像をつかった
情操教育のひとつ。美術館の環境は最高かも。



写真から連想ゲームをしたり、
展示する以外の方法も探れそう！

〈モノマネ鑑賞〉

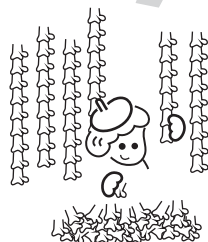
身体を使って、作品になりきりながら鑑賞する。
言葉にはできないことを、自分を使って表現することの
学びにもつながる。言葉にならないことも大事！

好きな作品のイメージで作った服やモノを身に
まとして、鑑賞してみる。園で、衣装を作る
ときから、美術館を想像して楽しめる。

すべてのことは、モノマネから学んだりする。作家さん
になりきって新作を作ってみても楽しそう。それを展示して自分で
作品を発表したり、他の人の作品に感想を言ってみよう。



答えのないことを、楽しんでみる



廃材を使ったり、ハロウィンにあわせて
全園で美術館に集まってみても◎

先生たちによる／

〈常設展示を子どもたちと楽しむためのアイデア〉

〈作品でものがたり作り〉

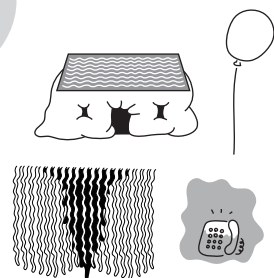
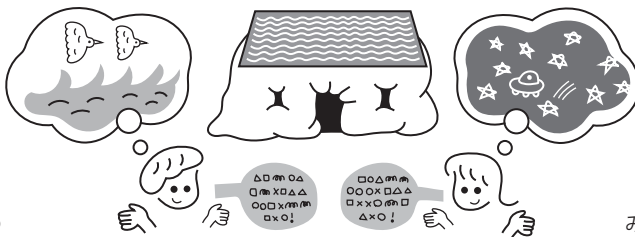
ひとつの作品から、オリジナルの物語を考える。
考えた物語を絵本のように絵にしてみても良いかも。
物語にすることで、より自由に作品に没入できる。

いくつかの作品を組み合わせ、物語を考える。
それぞれが考えた話を組み合わせても◎
その話を聞いてから、また鑑賞すると更に面白い。

物語が難しい場合は、作品のタイトルを自由に考えてみるのも
良いのでは。オリジナルのタイトルで想像を膨らませてから、
実際のタイトルを知れば、また鑑賞の幅が広がりそう。



みんなが描いた絵をつなげて
物語にしたり、大きな絵本にしても◎



それぞれのお気に入りの作品や
みんなで鑑賞した作品を題材にしたり ...

番外編／

〈子ども鑑賞ウィーク（があったらいいな...）〉

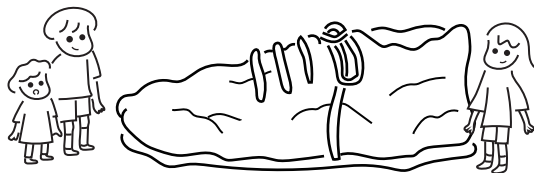
来館者が少ない時期などに、館内のいろいろな
場所に、いろいろな楽しみ方ができるエリアを
設けて、親子や園、学校単位で来れる仕組みを作る。

各作品や作品がない場所でも、おもしろい鑑賞の
きっかけになるようなヒントが書いてあると
ゲーム感覚で、頭の体操ができるのでは。

いつもの美術館ではできないことが、限定でできる期間が
あったら行きたい！鑑賞が難しい...と思っている人たちが
美術館に通うきっかけにもなりそう。家族でも楽しめる。



作品になりきれたり
作品に入り込む撮影スポットがあったり ...



各園でつくった作品や取り組みなどを
カフェや市民活動スペースなどに展示してみる ...



作品や地域のことを
楽しめるワークショップを開催するなど ...

先生たちによる／

〈常設展示を子どもたちと楽しむためのアイデア〉

〈\たのしみかた/アイデア〉

それぞれの作品の\たのしみかた/アイデアやひらめいたこと、
考えていたことなどを自由にかいてください。
オリジナルの\たのしみかた/BOOKを作ってください。

先生たちによる／

〈常設展示を子どもたちと楽しむためのアイデア〉

〈\たのしみかた/アイデア〉

それぞれの作品の\たのしみかた/アイデアやひらめいたこと、

考えていたことなどを自由にかいてください。

オリジナルの\たのしみかた/BOOKを作ってください。

先生たちによる／

〈常設展示を子どもたちと楽しむためのアイデア〉

〈\たのしみかた/アイデア〉

それぞれの作品の\たのしみかた/アイデアやひらめいたこと、

考えていたことなどを自由にかいてください。

オリジナルの\たのしみかた/BOOKを作ってください。